

# 令和元年度 後期学校関係者評価書

南アルプス市立大明小学校

## 第2回 学校関係者評価委員会

1 実施日 令和2年1月16日（木）午後7時00分～午後8時00分

2 会場 大明小学校校長室

3 参加者 学校関係者評価委員  
石田敏枝（委員長）  
杉山由貴子  
市川和男  
石川 恵  
岡本知子（欠席）  
山形賢治（欠席）  
篠原未佳  
学校職員  
飯久保一男（校長）  
内藤 賢（教頭）  
米山 隆男（教務主任）

### 4 学校から提案された内容

（1）学校経営について（校長）

（2）学校の自己評価について説明

①保護者アンケート（教頭）

②教職員による自己評価（教務主任）

③児童アンケート（教務主任）

### 5 特に協議された内容の概要

#### （1）保護者アンケート結果

① 設問8「地震・災害・不審者対策」について、地震の訓練では2学期に初めて「予告なし訓練」を行った結果、自分で判断して行動できない児童が多数いたことから、再度の訓練を予定している。不審者対策では、見守り隊の拡充、パトロールベスト配付、下校時刻表の全家庭配付、安心メール送信等により対策を行ってきた。

一方、集合場所点検と通学路点検を実施し、危険場所への対策を市へ要望として提出している。今回、懸案だった甲西中前信号に北側から来る通学路の、通学時の市バス通行迂回が実現できた。狭い道路に市バスが通る危険を回避できたことは、様々な方にご協力いただいた成果である。

② 設問13、14「携帯電話」では、携帯電話を持たせる割合が少し増えている。他地域に比べ、本校児童の携帯保持率が高いことが気になるが、前期よりもルール作りのA回答が増加した。世の中でネット関係の事件が頻発していることもあり、意識が高まっていると思われる。2学期末にも、保護者に向けて注意喚起の文書を配付した。学校でもスマホ・携帯電話の安心安全な使い方について学習できる場を確保する。

- ③ 設問16「あいさつ」は、人によりできている・いないの感じ方の違いもあると思うが、継続して様々な取り組みを行っているものの数値上改善しない。学校でも地域でも、「おはようございます。」の形式的な硬い表現だけでなく、ハイタッチを試みたり、もっと気軽な声かけを試みたりしてはどうだろうか。丁寧な言い方も大事だが、コミュニケーションを深めるには、その人らしさが感じられるあいさつも必要と思われる。
- ④ 設問17「意思の疎通」について、前期でも書いたが日頃の保護者の肯定的なご理解ご協力がとてもありがたい。例えば、学校から保護者に電話して不在だった時、後で学校に「電話をいただいたのですが。」と折り返し電話をいただける場合が非常に多い。大明小の保護者にとっては当たり前のことでも、他地域では当たり前でないこともあり、大変ありがたい。これからも大明小学区のコミュニケーションを尊重する雰囲気を大切にしていく。

## (2) 教職員による自己評価

- ① 設問6-①「児童は、あいさつができていたか。」の問いに対して、「玄関でのあいさつはできているが、それ以外の場所ではあいさつが少ない」「複数の友達と一緒にいる時に、誰かがあいさつをすれば自分はしなくていいと思っているように感じることもある。一人一人が、目と目を合わせてあいさつができるように、引き続き声かけや取り組みが必要」との意見がある。あいさつを課題と考える教職員が多い。いつでもどこでもあいさつができるように、全校で計画的に家庭・地域も巻き込む中で指導を行っていく。

## (3) 児童アンケート結果

- ① 設問1「学校は楽しいですか。」の問いに対して、「いつも楽しい」「だいたい楽しい」と肯定的な回答が94.5%で、1学期とほぼ同じである。肯定的回答が多い学年は、1年生と6年生で、ともに96%となっている。理由は、「友達と遊べるから」「勉強が楽しいから」が多い。その次に「友達が優しいから」と続いている。  
「あまり楽しくない」「楽しくないことが多い」と否定的な回答は、1学期と比べほぼ同じである。「楽しくないことが多い」と答えている子の理由は、「悪口を言われるから」「勉強が嫌だから」「けんかをするから」「楽しいと感じられない」となっている。  
友達との関係が深まるような学級づくりを担当が努力してきているため、否定的回答率が低く維持されているが、引き続き粘り強く指導していく必要がある。
- ② 設問6「進んであいさつができましたか。」の問いに対して、1学期に比べ「よくできた」「できた」が、84.8%→83.7%と若干減っている。高学年は、「あまりできなかった」の否定的回答が若干増えている。  
あいさつについては、本校の課題ととらえ、改善策を教職員で考え児童を巻き込みながら取り組んでいく。また、学校と家庭のさらなる連携が必要である。

## 6 協議の場に出された意見等

### (1) 児童のあいさつについて

- ・あいさつのアンケート調査の数値が低いのは毎年のものである。玄関ではするが、他の場所でやらないと聞いている。あいさつをする子としない子の差が大きい。声には出せていないが、心の中ではあいさつをしているのではないか。
- ・単にあいさつをするからよいか、しないからよくないではなく、なぜあいさつができる子どもはよいと思えるのか、あいさつができていない子どもはどんなところがよいのかを考える必要がある。よさを深くとらえることで、改善点を探りたい。

### (2) 児童のスマホ等の使用について

- ・携帯・スマホを持つのはいいのだが、家庭でのルール作りをしっかりとってほしい。
- ・学校では、家庭のルールづくりとして時間を守る、自分の部屋に持ち込まない等と呼びか

けている。

- ・子どもたちが店に来るが、ずっとスマホをいじっている。
- ・家庭内でどんなルールを決めているか、保護者にアンケートをとってみるのもよいのではないか。
- ・メールなどで文字のやり取りだけでは、過激なことを平気で書くことが多いので気をつけなければならないが、逆にメールだとふだん言葉に出せないことを書けるので、仲良くなる場合もある。

### (3) 児童の登校、通学路について

- ・甲西中の北側の通学路のバスについては、議会でも取り上げられ良かった。登校時に非常に危険だと思っていた。
- ・祖父の方が、朝も午後3時も甲西中北交差点横断歩道で登下校を見守ってくださり、ありがたいと感じる。
- ・本来右側を通学路で使わなければならないが、道路の構造上、左側通行でも仕方がない。広い歩道の方を通り、安全優先で登校してもらいたい。
- ・道路の甲蓋が開いていて登校するのに危ない。何度も危険性を訴えている。
- ・信号機をつけてほしいところがあるが、なかなかつけてもらえない。つけていい間隔が決まっているし、土地の所有者との関係もあり難しいのではないか。

### (4) 保護者と学校の意思の疎通について

- ・学校と保護者のコミュニケーションがよくとれている。
- ・学校から電話すると必ず着信を見て、保護者の方が学校へ電話してくださる。なかなか他の地域ではできないことをしてもらい感謝している。
- ・電話の話はいいことである。今後も学校と家庭でいい関係を続けてほしい。

### (5) 児童の学校での様子

- ・土日によく校庭で友達と遊んでいる。子どもは、学校へ行くのが楽しいと言っている。
- ・クラスの雰囲気が良い。
- ・小さい時から5年生を見ているが、とても成長を感じる。担任の先生がおおらかに子どもたちを見守り、締め付けないのがよい。

### (6) その他

- ・新3年生が1クラスになり、多人数で心配である。知事の公約で少人数学級を上げているが、とてもよいことだと思う。しかし、本校の場合、教室が足りなくなることが心配されている。
- ・南アルプス市は、小中一貫教育により小中の学校教育目標がつながるようにしている。小中ギャップの解消、9年間を見通した取り組みのために、教職員が小中でお互いの授業観察を通しての交流・情報交換を行っている。学校の個性をそのまま生かし、それ以外のことで教育課程を変えていってほしい。
- ・新学習指導要領実施となり、プログラミング教育や外国語が授業に入ってきて、先生たちも大変である。夜遅くまで働いている先生がいて、体は大丈夫なのか、土曜日や日曜日にも出勤している先生がいて大変ではないかと心配になる。

貴重な御意見、ありがとうございました。

評価書作成責任者

関係者評価委員会委員長

石田敏枝